

授業概要

はじめに、学習指導要領に述べられている算数科の指導目標や内容を領域別、学年別に概観し、その基本となる考えについて考察し、算数科の目指す学力や育成すべき能力についての理解を深める。次に、教科書や実践例を検討し、指導方法及び情報機器の活用方法、教材研究の手法、指導案の作成方法などを習得し、必要な教材や指導案が作成できるようにする。さらに各自が作成した教材や指導案により、模擬授業を行う。このような講義や活動を通して、実践的な教材作成力や指導力を身につけさせる。

授業計画

第 1 回	1. 本科目に関するオリエンテーション 2. 算数科の目標と学年別の目標
第 2 回	授業記録の作成と指導案の作成
第 3 回	算数科における評価（評価の観点・規準・基準、評価計画）
第 4 回	算数科の各領域の内容と指導（1） ・ A領域のねらい、内容、学年別の指導内容、情報機器の活用方法、教材分析
第 5 回	算数科の授業づくり（1）・ 前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第 6 回	模擬授業（1）・ 授業記録の作成、模擬授業の評価
第 7 回	算数科の各領域の内容と指導（2） ・ B領域のねらい内容、学年別の指導内容、情報機器の活用方法、教材分析
第 8 回	算数科の授業づくり（2）・ 前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第 9 回	模擬授業（2）・ 授業記録の作成、模擬授業の評価
第 10 回	算数科の各領域の内容と指導（3） ・ C領域のねらい、内容、学年別の指導内容、情報機器の活用方法、教材分析
第 11 回	算数科の授業づくり（3）・ 前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第 12 回	模擬授業（3）・ 授業記録の作成、模擬授業の評価
第 13 回	算数科の各領域の内容と指導（4） ・ D領域のねらい、内容、学年別の指導内容、情報機器の活用方法、教材分析
第 14 回	算数科の授業づくり（4）・ 前回の教材分析に基づく指導案の作成及び検討
第 15 回	模擬授業（4）・ 授業記録の作成、模擬授業の評価
第 16 回	定期試験

到達目標

算数科の目標や内容、評価等、算数科の授業を行うために、指導者として必要な基礎的知識の理解を図るとともに、算数科における指導方法及び情報機器の活用方法、教材研究の手法、指導案の作成方法など具体的な算数科教育法を習得させ、教育実践につながる能力や技術及び態度を育成する。

履修上の注意

- ・ アクティブラーニングの1方法であるLTD話し合い学習法に基づいた学習を行う
- ・ 予習ノートを必ず作成して授業に臨む。
- ・ 予習ノートや各自の指導案はミーティング終了後に必ず提出する。
- ・ 遅刻・欠席はミーティングの妨げになるので極力しない。

予習復習

予習：第1、3回目の授業で説明する予習の方法に従って、予習ノートを作成する。指導案を作成する。
予習ノートや指導案はミーティング終了後に提出する。
復習：第1回目の授業時に配布する「小学校算数科の内容と目標」の問題例、目標を記入する。

評価方法

予習ノート（10%）、指導案（12.5%）、授業記録（2.5%）、課題「内容と目標」（25%）の評価点と定期試験（50%）の結果を総合的に判断して評価を行う。
なお、遅れて提出された予習ノート、指導案、授業記録、課題「内容と目標」は評価しない。

テキスト

文部科学省 2018, 「小学校学習指導要領解説 算数編」, 「新しい算数3上、4上、5上」、東京書籍